

文化審議会（H29.7.4）における主な意見

■ 学校に関するもの

- ・ 都市部の学校から、地域の民謡を知りたいという依頼があり、それがきっかけで、学校間で交流している例がある。富山県には、おわらをはじめ様々な民謡があるので、民謡を通じて、都会の子どもたちと交流できるような仕組みがあれば、ふるさとの民謡を大いに発信できる可能性がある。
- ・ 学校教育との連携で実施している事業について、もっと広く子どもたちに見に来てもらったり、参加型になればいい。
- ・ 小学校などで出前公演があるが、単なる鑑賞だけではなく、体験する機会をつくっていただけたら、一層子どもたちの感性が磨かれる。
- ・ 地域のふるさと教育について、学年が上になるにしたがい、そういう授業が少なくなっている。人口減少とともに中央への人口流出を防ぐには、子どもながらにふるさとに魅力を感じるということが大切なので、発達段階に応じた教育が必要である。
- ・ 富山県美術館、やはり双方向がキーワードとされていて、子どもたちが受け身でなく主体的に表現し、発信する力を身につけていくためには、そういった施設等の利用が、学校教育でも必要。
- ・ 学校教育の授業の中で美術館と連携して、訪問して鑑賞するということを行っているが、定着が難しく、生徒もやはり多忙化ということで、休日に自分で自主的に美術館へ行くという生徒は少ない。
- ・ 美術の部活動に関しては、富山県では画家、作家の先生方に協力していただいて講評会を開いたり、富山県美術館と協力してワークショップを開催したり等、積極的に活動を行っている。
- ・ 富山県は、興味のある子どもたちにとっては大変いろんなことに参加しやすい環境ではあるが、興味がまだまだ足りない子どもたちにどのような種を植えつけるのかというところが、学校教育の課題だと思う。
- ・ 高校は芸術3教科（書道、美術、音楽）の選択だが、年々少しずつ美術が減っている状況。小学校、中学校でどのような図画工作、美術の教育を受けてきているのか。学校によって少し内容が異なるので、その把握も必要ではないか。

■ 富山県美術館に関するもの

- ・ 美術館のアトリエやギャラリーで、子どもたちの双方向の体験をすることが計画されており期待しているが、学芸員や東京などでやっているノウハウをそのまま持ってくるのではなく、富山らしさや富山の子どもに合ったものも必要ではないか。
- ・ 今、美術館は高校生まで無料で入れるが、大学生の無料化も検討いただけないか。

■ こどもに関するもの

- ・ ファミリー世代や子どもたちをどう地域行事や文化振興の行事等に目を向けさせて参加してもらうかが本当に課題であると感じる。
- ・ 余暇の過ごし方が多様化しており、本当に子どもたちは忙しい。「学校と地域でつくる文化の担い手育成」、ここに家庭もしっかりと入っていかなければいけないと痛感した。
- ・ 放課後子ども総合プランで、地域の公民館と連携協力し、お祭りの練習や民謡の指導などを行っているところがあるので、そういった地域の現状がどういうふうになっているのか調査して、補助などがあるとありがたい。

■ 大伴家持に関するもの

- ・ ある教育活動の大変活発な小学校の5年生の授業で、大伴家持について何か知っていることはないかと質問したら、全く声が上がらない。これがもしかしたら教育現場の実態かなと。
- ・ 県民も、20%の方がほとんど知識がない。普及は大変地道だが、実施してほしい。

■ 計画の推進体制に関するもの

- ・ 実際の推進体制がいま一つ見えてない。推進体制を明記することで、それぞれの関係主体者がどう行動につなげていけばいいかということがはっきりする。10年間のスパン、5年のスパンで指標目標を小刻みに具体化する体制が必要。
- ・ 計画をどう現場で進めていくかということが非常に大切だと考えるが、それは記載してある「文化振興のための体制づくり」に尽きる。役割が記載された表があるが、ぜひこの枠にとらわれないように、オーバーラップして、フレキシブルに動かれることも考えていただきたい。

■ その他

- ・ シアター・オリンピックスは、非常に発信力もあり、2020年のオリンピック・パラリンピックの文化事業という意味でも発信力があるので、富山、利賀から発信していくという形で進めていただきたい。
- ・ 文化芸術には才能、スターが必要。芸術教育においては、英才教育というか、才能を本当に伸ばしていくという面も1つ重要ではないか。
- ・ 各団体において、高齢化も問題になっており、各団体がジュニアを育成する場合に、何か援助していただけるシステムがあればよい。